行 政 視 察 報 告 書

令和８年 11 月 2 日

長浜市議会議長　様

長浜市議会議員　　福永　晋

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

１．視察等名　　総務教育常任委員会行政視察研修
２．視察期間　　令和８年１０月２８日（水）～１０月２９日（木）
３．視察場所及び目的
　①　静岡県磐田市
　　小中一貫教育とコミュニティ・スクールについて
　②　東京都武蔵野市
　　学校給食を核とした食育の推進について
４．調査内容感想等

・視察の目的

① 静岡県磐田市
　小中一貫教育とコミュニティ・スクールについて
　長浜市の教育の在り方を再構築するにあたり、他自治体における教育の新しい枠組みについて学び、長浜市ならではの教育の充実、発展の参考とするため。また、平成２８年度からコミュニティスクール(学校運営協議会)を市内全ての公立小中学校で設置し、早期に地域と学校を結び付けた先進的自治体である磐田市のコミュニティ・スクールの事例について学ぶため。

② 東京都武蔵野市
　学校給食を核とした食育の推進について
　学校給食の先進地である東京都武蔵野市の事例を学び、長浜市における学校給食のあり方について検討するため。

長　浜　市　議　会

・視察内容

① 静岡県磐田市

小中一貫教育とコミュニティ・スクールについて

○小中一貫教育

『学府』…中学校区を基準に作られた小・中学校の新しい枠組み

※小学校区ではなく、目標やカリキュラムを共有する磐田市独自の教育的枠組み（全１０学府）

『学府』設置の背景：

・生活圏と教育区分の一致が目的

・〝中１ギャップ(小6→中１の急激な環境変化)〟

小中一貫教育の成果…こどもに対する切れ目のない支援

「乗り入れ授業」による小学校教員の専門性向上

「　〃　」による中学校教員の児童の実態把握

「　〃　」による児童の中１ギャップの解消

〃　の課題…通学方法に対する懸念

・通学路変更による安全性の確認

・スクールバス等の確保や運営

○コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールの役割…学校のパートナー

〃　の成果…教員の業務量軽減

教育における地域参画の増加

〃　のポイント…教育ビジョンを地域と共有すること

② 東京都武蔵野市

学校給食を核とした食育の推進について

○武蔵野市立学校給食桜堤調理場(見学)

・安全と鮮度を重視した食材選定…積極的な地元農産物の使用

・防災機能…高い耐震性/米と調味料の備蓄(ローリングストック)/プロパンガス対応釜(一部)

・食育…地域食育ステーション

○武蔵野市給食・食育振興財団

武蔵野市独自の学校給食の伝統を継承するために財団を設立し、給食業務を委託。人員の柔軟な雇用。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

静岡県磐田市の「小中一貫教育」「コミュニティ・スクール」について学び、長浜市の教育ビジョンと枠組みをあらためて検討していくことが重要であると感じた。従来の小学校区や中学校区といった地理的な枠組みではなく、教育的目標(地域の子ども達がどのように育ってほしいか)を共有する枠組み（地域の教育圏）が学校や教育の在り方を再構築するために有効な手段になりうるのだと知った。学校だけでなく児童や保護者、地域住民と問題意識や教育ビジョンを共有し、実際の教育活動に多くの人を巻き込んでいくことが、人口減少がすすむ長浜市にとって数少ない教育の再編方法なのだと思う。まずは学校単位ではなく、学区を超えて教育活動を実施する可能性について検討する。学校間での調整などで教職員の負担が増加しないように注意しつつ、学校行事の合同開催や学校間地域間の交流などを少しずつ増やす施策について研究する。同時に地域の人が教育に参画しやすい仕組みについても検討していく。

東京都武蔵野市は学校給食の伝統である「安心・安全」を維持、継承していくために給食・食育振興財団を設立し、給食業務を委託することで柔軟な運営を行っていた。非常に高い人口密度のため地理的な制約はあるが、提供方式や職員の雇用条件、財団設立の過程など柔軟な運営体制を確立していた。長浜市とは全く違う状況であるため、学校給食の運営体制については参考にしがたいと感じたが、給食センターの防災機能の考え方や不登校支援などの学校給食と教育の関連性については長浜市においても検討の余地があると思う。長浜市においても学校給食はしっかりとした方針をもって運営されている。今後も市や地域の特性を踏まえ、持続可能な学校給食のあり方について検討していく。
